

高大連携教育フォーラム



1 テーマ 未来の教育をかたちづくる高大連携

～ 人と人をつなぐ 今と未来をむすぶ ～

2 日時 平成29年8月5日(土) 13:30～16:10

3 場所 金城大学 〒924-8511 石川県白山市笠間町1200

4 対象 北陸3県を中心に 国公立高等学校教員, 高等教育関係者

5 内容

13:30～14:30	<p>シンポジウム H211 教室</p> <p>「未来の教育をかたちづくる高大連携</p> <p>～ 人と人をつなぐ 今と未来をむすぶ ～」</p> <p>シンポジスト</p> <p>橋本 勝氏 富山大学 教育・学生支援機構 教育推進センター 教授</p> <p>藤岡慎二氏 北陸大学 経済経営学部 教授</p> <p>杉森公一氏 金沢大学 国際基幹教育院 高等教育開発・支援系/部門 准教授</p> <p>前川修一氏 明光学園中学校・高等学校 教諭</p>
14:40～15:30	<p>分科会</p> <p>① ICTと理数系教育 H204 教室 杉森公一氏</p> <p>② コミュニティと地方創生 H205 教室</p> <p>藤岡慎二氏 寺西 望氏 (金沢高等学校)</p> <p>③ アクティブ・ラーニング型授業で学ぶ高校日本史 H209 教室</p> <p>— インタラクティブに思考力を伸ばす授業づくり — 前川修一氏</p> <p>④ 新入試に向けた言語活用教育の在り方 H210 教室</p> <p>橋本 勝氏 岡野大輔 (金城大学) 若月博延 (金城大学短期大学部)</p>
15:40～16:10	<p>クロージング H211 教室</p>
16:10～16:30	<p>情報交換会 H211 教室 (ご自由にご参加ください。)</p>

『 未来の教育をかたちづくる高大連携』

～ 人と人をつなぐ 今と未来をむすぶ ～ 』

シンポジスト略歴・紹介

<p>橋本 勝氏</p> 	<p>富山大学教育・学生支援機構 教育推進センター 教授／副センター長 京都大学経済学部卒業、京都大学大学院経済学研究科博士課程単位取得満期退学。 岡山大学教育学部講師、助教授、岡山大学教育開発センター教授（FD 部門長）を 経て、2011 年 4 月より現職。主な著書に『学生と変える大学教育』（共著編、ナ カニシヤ出版）、『学生・職員と創る大学教育—大学を変える FD』（共著編、ナカ ニシヤ出版）など。学生・教職員・市民が協働で大学教育の改善・充実・深化・ 発展を推進しようとする学生参画型FD、多人数講義でのアクティブラーニング 手法である「橋本メソッド」など学生を楽しく巻き込む授業方法の革新を進めて いる。</p>
<p>藤岡 慎二氏</p> 	<p>北陸大学経済経営学部教授/教育政策アドバイザー・総務省地域力創造アドバイザ ー/株式会社 Prima Pinguino 代表取締役 2009 年より島根県海士町の隠岐島前高校魅力化プロジェクトに教育ディレク ターとして参画。全国で公営塾の探求型学習や地域資源を活用したプログラムのプ ロデュース、高校でのカリキュラム改革などの展開に従事。現在は北陸大学教授 として専門分野は地域起業、社会起業、ソーシャルビジネス、行政改革、教育行 政、教育改革を研究領域とする。ノーベル平和賞受賞者ムハマド＝ユヌス氏が認 めるソーシャルビジネスカンパニーに認定。</p>
<p>杉森公一氏</p> 	<p>金沢大学国際基幹教育院高等教育開発・支援系/部門 准教授 富山県立砺波高等学校普通科卒業。筑波大学第一学群自然科学類卒業、同教育研究 科修了、金沢大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了。金城大学研究員、医 療健康学部助手・助教を経て、金沢大学大学教育開発・支援センター准教授。2016 年より現職。専門は計算量子化学、理科教育および大学教育開発。修士（教育学）、 博士（理学）。学内ではAL 導入による総合改革を進めており、様々なAL のため の教授方法やツールをとりいれている。座右の銘「Fast alone, far together」</p>
<p>前川修一氏</p> 	<p>明光学園中学校・高等学校 教諭 絵画史料を駆使した看図アプローチと、Benesse「VIEW21 高校版」Vol.2（2016 年 6 月号）に紹介された歴史の習得における「思考のひっかかり」のための動機 づけを大胆に行い、時代の実相に迫る日本史の授業を研究している。また、東京 大学インタラクティブティーチング・リアルセッション（第 3 期）で学んだスキ ルを実践し、多くの実践者、研究者から学んだスキルを工夫し、独自のアクティ ブラーニング授業を展開している。</p>

ファシリテーター

寺西 望氏（金沢高等学校）

杉森公一氏

~~~~~  
ICT (Information and Communication Technology) を活用した理数系教育は、従来の提示・共有・評価の在り方を変えていく可能性があります。本分科会では、視聴覚機器による「提示」の講義設計（授業内）、反転ビデオを用いた「提示」「共有」の学習設計（授業外）、授業内外の組み合わせたブレンド型授業設計（学習の個別化とアクティブラーニング）に広がったトピックを扱います。知識の習得から、その理解を促す活用、問題解決を深めていく探究へ梯子をかけていく、総体としての授業設計とその評価を捉えるきっかけになれば幸いです。

~~~~~

藤岡慎二氏 寺西望氏

~~~~~

今、全国に高校魅力化プロジェクトが広がっている。少子高齢化や人口減少により離島・中山間の統廃合されそうな公立高校を魅力化するプロジェクトだ。具体的には、

①その地域、高校でしかできないカリキュラム作り、②公営塾、③教育寮 などの施策で、地域からの中学生の流出を防ぐ試みで北海道から沖縄まで行われている。

ポイントとなるのは地域と高校が連携した授業である。地方や離島・中山間は課題先進国日本における課題先進地域である。課題という意味では世界の最先端を走っているのは離島・中山間なのだ。だからこそ、世界中の将来起きうる問題が地方には詰め込まれており、これが答えがない時代を生きる子供達にとっては最高の教材となる。田舎は教育最先端地域なのである。

本分科会では地方や離島・中山間での高校魅力化プロジェクトの実態と地域と連携した学びについて、更には2020年からの入試改革にも触れつつ、地方での教育のあり方についてディスカッションしていく。

ICT (Information and Communication Technology) を活用した理数系教育は、従来の提示・共有・評価の在り方を変えていく可能性があります。本分科会では、視聴覚機器による「提示」の講義設計(授業内)、反転ビデオを用いた「提示」「共有」の学習設計(授業外)、授業内外の組み合わせたブレンド型授業設計(学習の個別化とアクティブラーニング)に広がったトピックを扱います。知識の習得から、その理解を促す活用、問題解決を深めていく探究へ梯子をかけていく、総体としての授業設計とその評価を捉えるきっかけになれば幸いです。

~~~~~

第3分科会 アクティブ・ラーニング型授業で学ぶ高校日本史

—インタラクティブに思考力を伸ばす授業づくり—

H209 教室

前川修一氏

~~~~~  
今次の教育改革で初等中等教育に求められている「主体的・対話的で深い学び」（いわゆるアクティブ・ラーニング）は、これを実現する綿密な授業デザインとその実践によって可能となる。本分科会では、鎌倉仏教を素材として高校日本史におけるアクティブラーニング型授業の例を提示し、看図アプローチ、シンク＝ペア＝シェア、紙製クリッカー（ボーディングカード）、ジグソー法、KP法などのスキルを用いたインタラクティブな授業を実現するとともに、全体を貫く「メイン・クエスチョン」と「ファンダメンタル・クエスチョン」の2つの問いによって、いわゆる歴史的思考力を培う深い学びへと受講者を誘導する。あわせて、授業の終わりにリフレクションシートを記述することで、受講者自身のメタ認知とともに、思考を整理する主体的な学びの実現をねらう。

~~~~~

若月博延

~~~~~

短期大学入学直後に開始される「文書表現演習」はリメディアル教育の一環としても行われる必修授業です。高等教育以降は、「書く力」を求められることが多くなります。アクティブラーニング（ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション）を行いながら、「社会人基礎力」である「考え抜く力、前に踏み出す力、チームで働く力」を身に付けさせ、「書く力」、「読みこむ力」、「聞く力」を養成する実例を紹介します。

~~~~~

岡野大輔

~~~~~

「法教育」は、一般国民が、法や司法制度、これらの基礎になっている価値を理解し、法的な考え方を身につけることを目的とする教育であるとされています。小中高等学校の学習指導要領にも位置づけられるに至ったこの「法教育」は、「書く力」「話す力」を基にした考え方（「思考力・判断力・表現力」）を育てる高大連携に繋がります。従来までの大学等における法学教育と、医療・福祉職の養成課程における専門教育との関係において再構成した、本学における「法教育」の取り組み事例を紹介し、これからの高大連携への視点を考える契機とします。

~~~~~

橋本 勝氏

~~~~~

百人を超える学生がクラス全体で活発に討議する「橋本メソッド」の実践で知られる私ですが、今回は、中人数のクラスで実践中の「新・橋本メソッド」について紹介します。「話す力」と「書く力」の融合としての発信力を自然に引き出し、伸ばす教養科目『新聞投稿に挑戦』は、かつて岡山大学の学生たちが授業の骨格を作った“学生発案授業”を私なりにアレンジして富山大学に持ち込んだものであり、どうすれば主体的に学べるかが学生目線で徹底探究されている上に、学生心理をくすぐる「橋本メソッド」の要素を加味しているため、学生たちの目の輝きがひととき目立ちます。クラス内予選を突破した作品群の中から最終関門の地元新聞社のセレクトを通して実際に新聞に作品が掲載されるとかなりの達成感があります。掲載された実例も示しますが、よくある「文章の書き方」講座的授業とは一味も二味も違う実践紹介になります。

~~~~~